

第1回明日香村小委員会における各委員からの指摘事項等

(資料4の論点メモに沿って整理)

1. 明日香村の将来像に関すること

- ・ 村では現在、第4次明日香村総合計画を策定中である。その議論の中でも出ているが、今までのように景観維持、農業振興、文化財保存、観光振興のそれぞれに対する取組だけではなく、それぞれの取組が組み合わさって明日香村の力につながるような仕組みづくりが必要。
- ・ 創造的活用に対するマインドは高まってきており、実際に様々な活動が行われているが、村民やボランティア等の参加が必要であるものの、これらの人々の組織化やネットワーク化に対する支援が不十分。

2. 土地利用に関すること

- ・ 古都買上地が景観を阻害しておりネックになりつつある部分もある。買上制度自体必要だが、地元の事情を踏まえ、維持管理について検討することが必要。
- ・ 移住したい人、農業をやりたい人がいるという話はよく聞くが、家売る・貸すという人は少なく、空き家斡旋等のシステムが不十分。また、移住希望の人が家屋を自分で修理するのは負担大。民間資本が買い取って修復するなどのしくみも考えられるのではないか。
- ・ 空き家対策も行う必要はあるが、二世帯住宅への助成など住民のための住宅政策も必要。
- ・ 夏の明日香観光の暑さ対策のため、四阿をつくれないだろうかと考えても許可されない。観光客のため、そして観光客に喜んで貰うことがやっている人の意欲向上につながるので、このような観点で規制緩和を可能とする明日香らしいルールが望まれる。
- ・ 土地利用で白抜きをつくれないか。規制一辺倒ではなにもできず、土地利用規制の考え方を見直すべき。宿泊施設は大きな経済効果があると考えており、その建て方（誘致）について検討する必要がある。

3. 生活環境の整備等に関すること

- ・ 例えば耕作放棄地化している土地に対し、皆で何とかしようというマインドが村民の中にも芽生えてきており、このマインドを活かすような整備計画が望まれる。従来型のハード中心ではなく、新しいライフスタイルを支援するという整備計画にしていく必要があるのではないか。

4. 景観に関すること

- ・ 違反建築物の件はいままで規制を守って暮らしてきた村民に非常にやる気をなくさせる事例であった。また、公共施設デザインの不統一等も見受けられ、明日香方式、明日香ルールといったものが必要ではないか。
- ・ 現行制度は全般的に維持管理コストの意識が希薄。例えば、オーナー制度等に要する費用を算出し、維持管理コストと比較してみて、明日香を今の原風景のままに維持するためにいかにあるべきかを議論することが必要ではないか。

5. 観光・交流に関すること

- ・ 観光客はお金を持っており使う意志はあるはずだが使う場所等がない。
- ・ 修学旅行先として、奈良や京都はおろか、明日香まで足を運ぶと言うことが少なくなっていることはゆゆしき問題。人を呼ぶためには情報発信、文化財の取り扱いがポイント。
- ・ 明日香の場合、一般的な意味での農村集落の活性化ではなく、明日香の風景や文化を伝承しながら生活面をどうしていくのかということ。明日香の特長は歴史、文化であり、これを支える産業は観光と考えるので、観光面での分析必要。海外メディア等での取り上げ方、近鉄の関わり方等はどうなっているのか。

6. 農林業の振興に関すること

- ・ オーナー制度等の取り組みも一部では行われているが、農林業のみでは村の活力維持は困難ではないか。
- ・ オーナー制度の導入により住民が自発的に取り組むようになったが、高齢化の進展により指導者やまとめる人たちがいなくなり、このままでは今後の継続は困難。
- ・ 農業が衰退すれば明日香の景観維持は困難となるため、景観保全に対する直接支払制度などが必要ではないか。
- ・ 農産物販売所は住民のやる気、生き甲斐にもなっており、福祉施策としても意味があった。300近い農家が法人格を取得し、自分たちで運営しようという動きがある。
- ・ 統計で右肩上がりとなっている項目をうまく活用すべき。例えば直売所の売り上げが伸びており、こういった点で発想を広げていくとよいのではないか。
- ・ 農業のみでは限界であり、体験農業など観光との連携、特産品開発などの工夫が必要。

7. 歴史的文化的資産に関すること

- ・ 国、県、村等により相当計画的に発掘調査は進められているが、遺跡が複

雑に重層していること等により、文化財の全体像が見えにくい。国、県、村の連携も含めた調査体制の整備を模索することが必要。

- ・ 文化財は現在判明しているものだけでも全体像は相当程度読み取ることができ、少し視覚的に整備等を行って活用することは不可能ではないと考えられる。
- ・ 遺跡の整備について、ハード面では全国でも様々な方法が採られているが、ソフト面が弱い。むしろソフト面を相当意識し、それを前提にハードの整備を考えるというような発想が求められ、明日香ではおそらくそれは可能と考えられる。
- ・ 文化財は目に見えないものが多く、わかりづらい。専門家にしかわからないものが多い。明日香をイメージさせるような再現施設を積極的に整備していったらどうか。
- ・ かつての国営公園は、景観の維持を行うだけで、遊具や遊べるものがなかったが、近年では花木、園路、休憩所などの整備を行っており、公園自体が集客活性化につながっていると考えている。キトラに関しては、村の活性化につながる、明日香の拠点施設のような施設も考えられており、期待している。
- ・ 国営公園において文化財の再現施設や明日香の歴史文化をイメージできるようなものをつくってはどうか。